

「第4回 食品産業もったいない大賞」



応募名称

需要予測の精度向上・共有化による 作りすぎ廃棄ロスの削減と省エネ

会社名、事業場名

食品ロス削減連合会

東京都豊島区 / <https://www.jwa.or.jp/project/project463/>

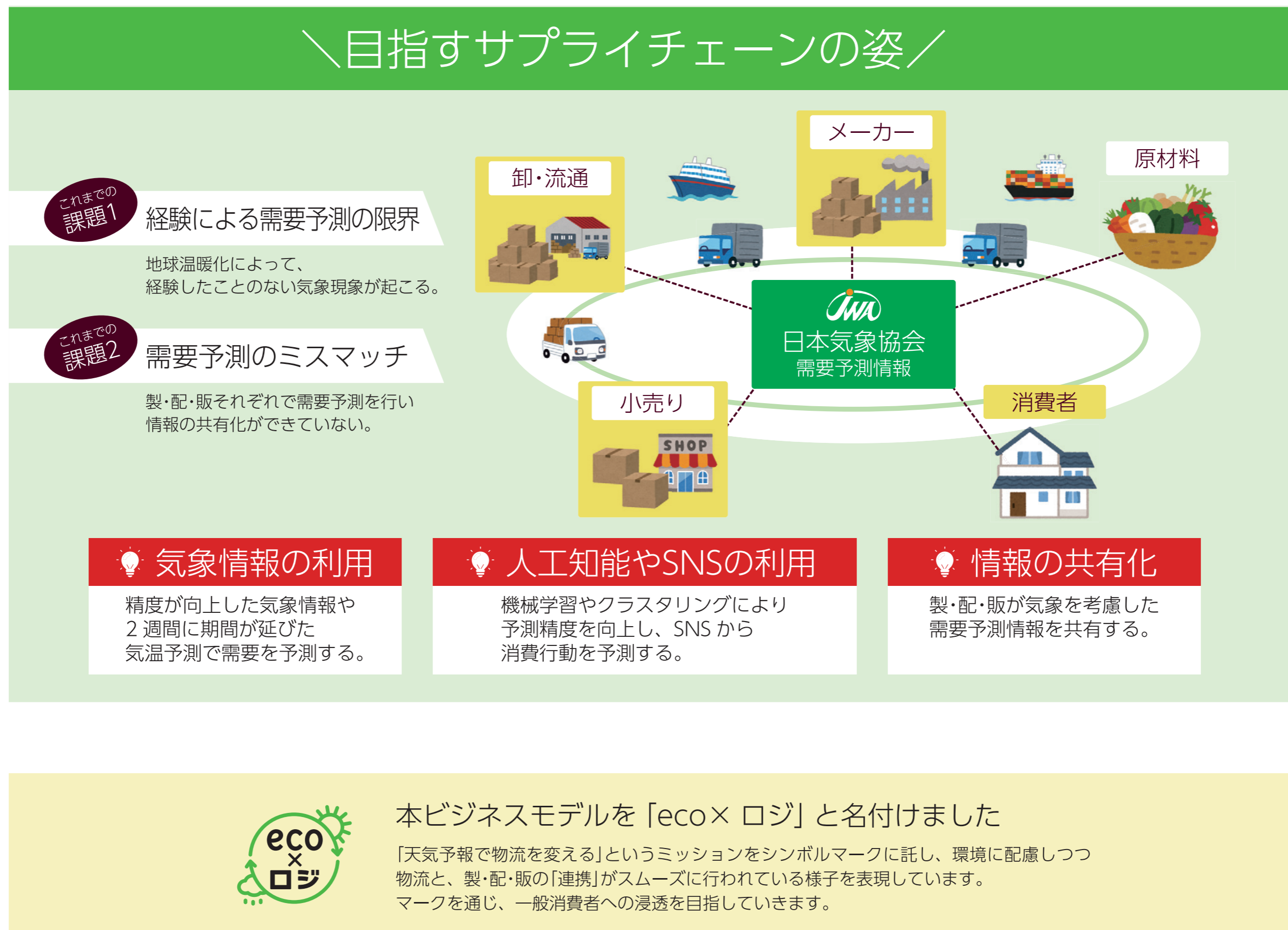
■ 具体的な取組内容 ■

天気予報で物流を変え“もったいない”を減らす

国連 WFP による世界の食料援助量の約 2 倍の食品ロスを出している日本。食品業界の現状としては、メーカー（製）、卸売事業者（配）、小売事業者（販）の各社が過去の販売実績や POS（販売時点情報管理）データなどに基づいてそれぞれが独自に需要量の予測を行っているため、生産量や注文量と需要量のミスマッチが発生し、廃棄や返品などの一因になっています。

そこで、当連合会の企業を含めた製・配・販の関連企業約 30 社が連携して、天気予報と人工知能を駆使した需要予測を共有し、作りすぎを防ぐことによる食品ロスの削減、在庫の最適化などに取り組んでいます。

本事業では、CSV（Creating Shared Value）を基本理念としており、企業の経済的価値と環境負荷の軽減などの社会価値の両立を目指しています。



— 食品ロス削減連合会 —

相模屋食料株式会社
株式会社タイヨー

株式会社伊藤園
ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社

国分グループ本社株式会社
一般財団法人 日本気象協会

■ 評価 ■

賞味期限という特性を持つ食品業界では、需要予測の誤差によって、工場での作りすぎや流通段階での過剰注文による廃棄という大きな課題を抱えている。気象予測情報を活用した需要予測システムを開発・共有することによって食品ロス削減へとつなげた取組は先駆的であり、特に食品産業でない組織が主導している点が画期的である。フードチェーン全体で需要予測情報を共有化できれば、更なる食品ロス削減が達成されよう。